

意見交換会実施報告書

【2班】

開 催 団 体	川内商工会議所			参加人員	13人	
開 催 日 時	令和7年10月20日（月） 10：00 ～ 11：30					
開 催 場 所	川内商工会議所 議員サロン					
出 席 議 員 （ 担 当 ）	議 員 名	出欠	担 当	議 員 名	出欠	担 当
	犬井 美香	○	司会進行・報告	坂口 健太	○	記録
	中島 由美子	○		山平 達也	○	写真撮影
	森永 靖子	○		宮野 健一	○	記録
	森満 晃	○				
	今塩屋 裕一	○				

意見交換の内容

（凡例 ◆団体の意見 ◇議員の意見）

（テーマ）

「経済発展都市・薩摩川内市 稼げる街・薩摩川内市」の実現について

（項目）

- ① アフターコロナの市内経済動向
- ② 事業継承問題・後継者の育成・人材確保について
- ③ 物価高騰対策について
- ④ 経済支援対策について
- ⑤ まちづくりビジョンについて

（意見交換会内容）

- ① アフターコロナの市内経済動向
 - ◇ 各事業者の現状やコロナ禍前後の変化があった事項、市の経済政策の中に助成金等もあったが、そのような中での変化などご意見ください。
 - ◆ コロナによりホテル、スーパー、小売店の売り上げはかなり落ちていたが、アフターコロナになっても以前の8割程度しか戻っていない。
 - ◆ アフターコロナになってお中元やお歳暮などのギフト商品にお金を使わなくなり、自分のために使うようになった。お金の使い方も小さくなっている。その中で消費を増やすためにインバウンド消費を目指しているが、鹿児島や川内はまだ対応できていない。
 - ◆ コロナ前は会食があると自然に二次会に流れていたが、会食が家族単位の小さなグループになったり、二次会自体がないという場合もあり、飲食店は厳しい状況である。
 - ◆ コロナ前に比べ、現在は会合などの回数も減り、また二次会が終わる時間も早くなっている。アフターコロナになってもそのような流れになっているので、元には戻りにくい。
 - ◇ 市内の飲食店の動向を伺ったが、アルコールだけなのか。また川内地区が特に戻りが悪いというのはどうしてか。
 - ◆ 飲食店は戻っていない。それに比例してアルコールの量も減っている。一方、単価が上がったことで、消費額が減っている。
 - ◇ アフターコロナの課題に関して、夜間のタクシーが少ないという話をよく聞く。タクシーがつかまらないので飲みには行かないという人も多い。今、自家用有償運送制度が改革されて、夜間など「時間帯による空白」が交通空白地の概念に取り込まれ運用できるようになった。また、料金もタクシー料金の8割程度に上昇し、導入の壁が低くなり使いやす

いものになった。薩摩川内市でも導入できるのではないかと考える。そうすれば飲みに入る人も増えるのではないか。

◆ 薩摩川内も原発の定期検査が始まるとタクシーが足りなくなる。タクシー問題も検討が必要である。

◇ 高齢化・少子化で家族が少なくなっている。高齢者も自分で食事を作らない人も多いため、総菜もちょっとしたものがよく売れている。家飲みをやっている人もいるため、それに合わせ薩摩川内市民が喜ぶおしゃれな商品もあるといい。

◆ 総菜製造業もやっていて、県内のスーパーに商品を卸しているが、確かに伸びている。業務用も伸びている。ただ、原料が上がりすぎていて、かなり業界は苦しんでいる。スーパーも同じだが、今後大手が中央から入ってくると大変な状況になっていく。

◆ スポーツ用品店もコロナの時は客がほとんど来なくて、売り上げが減り、かなり大変だった。15年前からネット販売をやっていたが、コロナの収束後もネット販売が主流になっている。薩摩川内、鹿児島は中央と比べて送料がかかり、それを管理する人たちの給料もかかり大変である。

◇ インターネットでの消費が増えているとのことだが、地元や県内での消費などどこからの注文が増えているか。

◆ 震災直後は、特に被災地からの注文が多かった。付加価値のある商品を入れて対応するようにしているが、送料のかかる薩摩川内からの発送は負担が大きい。

《主な課題・意見》

◆ ネット販売が主流になってきているが、中央と比較し輸送代が500円から600円ほど多くかかり不利である。行政による送料の補助又は、ネット販売の専門家も加えたワーキンググループを作れないか。

② 事業継承問題・後継者の育成・人材確保について

◇ 人材確保という視点も含め事業体の中での後継者育成や事業継承についての現状は

◆ 事業継承について、川内商工会議所は日本政策金融公庫と提携を結び情報共有をしながら積極的に取り組んでいる。

◆ 技術者の高齢化、人材確保、後継者もないということで、どこかと一緒にやらないと生き残っていけない状況になり1年前に事業承継した。一緒になったのが鹿児島市内の割と大きな会社であり、連携をとりながらやっている。

◆ 外回りの営業をしているが、建設業、社会福祉法人など、どこの業種も人が集まらない状況である。

◆ 人材確保について、ここ数年応募がなかったが、ここ3、4か月で動きがあり、面接をしている。特に、70歳以上の方が結構来られる。息子が野球をやっていた関係で仲間に声をかけ、19歳を2名採用できた。

◇ 鹿児島県も最低賃金が1,026円に上がってきたが、高い賃金の方へ人が流れなかなか職場に定着しないと聞かすが、そのような傾向があるか。

◆ 最低賃金が上がったことはいいことであるが、今後年収の壁が撤廃され、厚生年金の壁が出てくると企業にとっては大きな負担となる。障害者や高齢者を雇うことができなくなるかもしれない。

◆ コンビニエンスストアやレストラン、介護や食品会社なども大体1,200円くらいで募集している。ただ、やはり働きやすくて時間も無理をしない方を選んでいく。

◆ 農業をやりたい人はいるが、土地がなかったり色んな条件がそろわない。何より、5年間の研修を受けても生活が成り立たないことが問題である。土地の問題や農機具の問題、売り先の問題など皆で考えていかなければならない。

◇ 鹿屋市も取り組んでいるように、高校卒業後に県外に出ないよう企業と協力して人材確保に努めたい。

《主な課題・意見》

- ◆ 薩摩川内市内で離職率が高いのは肌感覚であるが、市外から来ている人が多いように感じるので、定住支援にもっと力を入れて欲しい。
- ◆ 障害者の中には障害者手帳を持たず働くこともできないグレーゾーンの方々もいる。また、元気な高齢者もいらっしゃるため、この方々に働くきっかけを与えるために一日2時間程度でもいい「働き隊」というものを事業化したい。
- ◇ 福岡県うきは市に主に75歳以上の高齢女性たちが働く会社があり、「ばあちゃんビジネス」として全国的に注目されている。勤務時間を1週間に数時間程度とし、無理なく働けるようにする一方で事業がビジネスとして成り立つようにしっかり運営されている。人手不足の解決のモデルになるのではないかな。また、農業などには繁忙期と閑散期の課題があるが、「特定地域づくり事業協同組合制度」があり、課題解決に効果があると思う。
- ◆ 建設は建築と土木があるが、土木は適正な利益を会社に残すことができる一方、建築は物価高で利益を得るのが厳しい。事業承継や人材育成を考えた場合、会社に適正な利益が残されることは重要であるため、市で発注される工事についても見直していただきたい。
- ◆ 事業承継は難しい問題が2つくらいある。1つは、事業承継先が県外事業者であれば市にあまりお金を落とさなくなる。もう1つは、潰れたり事業承継をするのは建設会社と医療法人が多い。例外もあるが、医療法人の理事長は医者でないと成れない。建設業も役員の制限がある。その規制緩和を進めることが事業承継に繋がると考える。何かしらの解決策があればいい。

③ 物価高騰対策について

④ 経済支援対策について

- ◇ 経済支援対策について、市からの助成金や補助金もあるが物価高騰なども続いているため、なかなか届いていない面もあるのではないかな。現状や不足する部分があればご意見をいただきたい。
- ◆ 薩摩川内市内では原材料の高騰や人手不足もあり、老人ホームやデイサービスが徐々に閉鎖していつている。経営的にも苦しいようだが、何か改善策がないかと考える。
- ◆ 薩摩川内市はDXに関してすごく頑張っており、つんPAYの導入もトライ&エラーの観点から始めることはいいことであるが、運用段階においては市民の税金が使われていることから、市議会等が費用対効果をしっかり監視する必要がある。状況によっては止めるタイミングをしっかり見極めることも大切であるため検討していただきたい。

⑤ まちづくりビジョンについて

- ◇ まちづくりビジョンも含めて、どのような薩摩川内を目指していくべきかご意見をいただきたい。
- ◆ 人口が減らない工夫をしなければならない。市内から新卒者が出ていかなないようにしなければならないが、川内商工高校などには全国から2,000社くらい求人があり、保護者の方々も大手の会社に就職させたいということもあり難しい。高卒の子どもたちが地元で働けるような魅力のある街にしていかなければならない。そのためには、港の開発などのインフラや遊ぶところなども含め大きなまちづくりが必要。
- ◆ 若者が定着するためには、働く場所もそうであるが、遊ぶ場所も重要である。
- ◆ 薩摩川内市はスタートアップ補助金があるのか。他市はスタートアップ支援を手厚くしていたり、新しい法人を作るための補助金もある。薩摩川内市は廃校もあるので、スタートア

- ップ企業をたくさん入れて、企業間で情報交換をするというまちづくりもいいのではないか。
- ◇ 閉校跡地については、薩摩川内市は補助金を結構出して高江中学校跡地がホテルやバドミントンを教える施設になったり利活用は進んできている。
 - ◆ 川内港がすごく発展してきている。色々な輸出入も増えてきているので進めていきたい。
- 《主な課題・意見》
- ◆ 川内港にクルーズ船が停まるようになって欲しい。
 - ◇ 甕島にはクルーズ船が寄港する機会が増えているが、バス利用はあるものの販売する商品がないなど、どれほどの経済効果があるのか不明。しっかりとしたビジョンが必要。
 - ◆ まだまだ港は大きくなりそうなので、背後にある保安林などの色々な規制を外して大々的に開発した方がよい。水引インターが国道3号に合流するところから港までの道路も必要。さらに、九州で港まで鉄道が来ているところはない。鉄道は運搬費も安く、排気ガスも出さないのもそういったことも考えて欲しい。
 - ◇ 川内港は重要港湾として今後も発展すると思う。その中で大きなデータセンターの話もある。川内でもそれに関連する企業を誘致できないか。あと、物流の流動という観点ではJRを川内港に引くことは必要ではないかと思う。川内・宮之城道路、西回り自動車道も含めたこの地域を、議会と企業の知恵と市役所で進めていきたい。
 - ◆ 市長以下議員の皆様も「川内で働こう」「地元で働こう」という旗（スローガン）を掲げていただきたい。